

特集 地域文化新時代 文化のまちづくり

巻頭言 ● 8 地域からの文化発信 無名塾の活動について 仲代達夫

座談会 ● 10 地域文化新時代

◇出席者 松浦幸雄／平田オリザ／中村信夫／永井多恵子／◇司会 竹本廣文

論文 ● 20 文化のまちづくりのマネージメントとは
◇衛 紀生

随想 ● 24 地域文化新時代 ◇草刈津三

エッセイ ● 28 変化の予感 ◇松本 修

● 30 地域文化と共鳴するバレエ ◇牧 阿佐美

事例紹介① ● 32 演劇は人と人を結ぶアート ◇DSP実行委員会

事例紹介② ● 34 伝統芸術と現代芸術が融合した文化のまちづくり
◇山形県庄内地方拠点都市地域

事例紹介③ ● 36 挑戦する勇気あげます!! ◇新潟県小出郷文化会館

事例紹介④ ● 38 スキヤキ・ミーツ・ザ・ワールド ◇富山県福野町

事例紹介⑤ ● 40 二一世紀への新価値づくり
山形の美学を世界へー臥龍桜日本画大賞展 ◇岐阜県宮村

解説① ● 42 「芸術情報フラザ」の活動内容 ◇芸術情報フラザ

解説② ● 44 地域文化の振興について ◇文化庁文化部地域文化振興課

特別記事 二一世紀に向けた介護関係人材育成の在り方

● 48 これからの高齢社会を支える介護関係人材の育成
C・A・R・Eプラン'97の持つ意義について ◇鈴木章夫

● 50 二一世紀に向けた介護関係人材育成の
在り方について ◇高等教育局医学教育課

● 52 育成段階における医療と福祉の連携の推進 ◇川崎医療福祉大学

● 53 福祉社会システム専攻という夜間大学院
◇東洋大学大学院社会学研究科

● 54 高齢社会における介護関係施策の課題
◇厚生省社会・援護局施設人材課

● 55 福祉サービス現場からの期待する医療系人材
二一世紀医学・医療懇談会第二次報告を読んで ◇橋本正明

1 ある日の学校訪問記
◇神奈川県立平塚ろう学校
(神奈川県)

4 天然記念物歳時記
◇トラフダケ自生地 (岡山県)

本谷のトラフダケ自生地 (岡山県)

表2 名作シリーズ ◇打薬扁壺

表3 文化財紹介 ◇郡上踊

6 であいふれあい ◇平尾誠二

57 鑑賞席◇ものがたりの森
子どものための美術展
◇開館10周年記念展

国立国際美術館の二〇〇年

58 焦点1 文教施策

63 中教審ユース

70 家庭教育のための取組
◇家庭教育への理解を深めるために

72 都道府県発—教育・学術文化・スポーツユース
◇北海道 東川町 ◇千葉県 ◇滋賀県

鳥取県

74 どんな講座 こんな講座—大学の公開講座から
◇東京農工大学 ◇沖縄大学

76 現代スポーツあれこれ
◇競技力向上を支える強化アスリートについて

78 行ってみたいやつてみたい
◇国立オリンピック記念青少年総合センター

80 海外教育ユース

82 文学のふるさと ◇田舎教師

84 編集後記

現代演劇の地殻変動が起こっています。これまでの「中央と地方」という図式では、今後、現代演劇を捉えることができなくなるのではないのでしょうか。

私はこの数年、様々な形で「地域における演劇づくり」に関わってきました。今は、「ドラマティックシティー・サツポロ・プロジェクト」という事業に、その中核となっている北海道演劇財団の常任演出家として参加しています。

私は札幌の出身なので、ちょうど故郷に呼び戻されたような格好になっていますが、新しい形態の演劇づくりを始めようという北海道の動きと、私の志向する演劇づくりの方向性がたまたま重なったわけです。

さて、私が十数年前、本格的な演劇活動をはじめたのは東京という街でした。当時の私は、演劇をやるなら東京しかない、と考えていました。迷うことなく、真っ直ぐに東京を目指したものです。今も、同じような思いの若者がいると思います。

は、大変な競争を勝ち抜かなければ、それはなかなか実現されません。ところが、地方では、演劇好きな高校生が、その演出家のワークショップに、気軽に、しかもとても安い受講料で参加しているのです。

東京在住の演出家が、地方においてワークショップや作品づくりをする機会は、今非常に多くなっています。ちなみに、私はこれまでに全国三十数か所で演劇ワークショップを行ってきましたが、なんとその九割が、東京以外の町で開催した

エッセイ Essay

演出家
松本 修



まつもと・おさむ 北海道出身。劇団文学座に俳優として10年在籍の後、平成元年に演劇集団MODEを設立する。平成6年度読売演劇大賞優秀演出家賞、平成7年度芸術祭優秀作品賞を受賞。演劇集団MODE主宰。北海道演劇財団常任演出家。

たしかに現時点では、演劇について学ぶ場所として、また、実際に演劇を作り、鑑賞してもらい、正当な評価を受ける場所として、東京はまだ有効な場所です。東京には多くの才能が集まっていますし、技術の蓄積もあります。観客も批評機能もとりあえずは存在しています。東京の「効率」の良さは、地方に比べ、やはり高いと言わざるを得ません。

しかし、果たして、この東京の「環境」や「システム」がほんどうにすべての演劇にとつて最良のものなのでしょうか？ 心ある演劇人は、以前から、大いに疑ってかかっていました。幾つかの果敢な試みがなされました。

そして、今や多くの演劇人が、これまでの「東京のやり方」から、一歩踏み出そうとしています。

状況は確実に変わりつつあります。例えば、こんなことが起こっています。東京に住む俳優が、ある演出家の演出や指導を受けようとしています。しかし、東京で

ものです。

「なぜ、本来の活動拠点である東京でワークショップを開催できないのだろうか？」この問いの中に、日本の演劇が抱える問題が含まれています。そして、私たちがなぜ「地域における演劇づくり」に関心を示し、具体的に身を投じているのかの答えがあります。

変化の予感の中、演劇人は各々の進む方向性の選択を迫られているのかもしれない。

変化の予感

特集 ● 青少年の 野外教育の推進

●巻頭言
野外教育のすすめ——三浦雄一郎

●座談会

生きる力を
はぐくむ野外教育

(出席者)五十川隆夫／杉原正
高梨房子／高野孝子／(司会)尾山眞之助

●提言

佐藤康男／阿部 治
佐藤初雄／土井浩信

●事例紹介——山口県教育委員会ほか

●文部時報7月臨時増刊号

「21世紀を展望した我が国の教育の在り方について」

中央教育審議会第二次答申

7月下旬刊行予定

▽人々が心の豊かさを求める時代となり、文化に対する関心も極めて高くなっています。各地域においても、美術館や文化会館などの建設が進み、地方においても優れた芸術文化に巡り逢える機会が多くなっていることは大変有り難いことだと思います。反面、運営などソフト面ではまだまだ課題も多いようです。このような中で今月号の特集は「地域文化新時代・文化のまちづくり」を取り上げました。

▽今年度の新企画「家庭教育のための取組」や「行ってみようやってみよう」はいかがでしょうか。御意見・御感想をお寄せください。お待ちしております。(T・K)

●訂正 平成九年五月号二四頁・事例紹介欄点大学方式等によるアジア諸国との学術国際交流についての記載中、上段「五行目」が「か国一五機関」は「COが国一六機関」に訂正し、中段五行目「フィリピン科学技術省(昭和五十四年)の後に、「韓国科学財団(昭和五十四年)」を追加します。

投稿歓迎

「読者からのたより」欄への投稿、「文部時報読者アンケート」を歓迎します。本誌を読んでの感想、御意見等をお寄せください。

●「読者からのたより」投稿規定

①1件につき400字以内 ②住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記(誌上匿名可) ③掲載分には薄謝進呈

※文章を一部手直しさせていただくことがあります。送り先 〒100 東京都千代田区霞が関3-2-2

文部省大臣官房政策課「文部時報」編集部

※電子メールでも受け付けております。

宛先名「jiho@monbu.go.jp」

●「文部時報読者アンケート」

文部時報読者アンケートは添付のはがきのほかに電子メールでも受け付けております。

宛先名「jiho@monbu.go.jp」

コンピュータネットワークを利用した文教行政の広報

文部省では、我が国の文教施策等を広く皆様に紹介するため、インターネット等を利用して情報を提供しています。

インターネットアドレス:

http://www.monbu.go.jp/(半角入力)

パソコン通信:

GO コマンド(Nifty-Serve) } MONBUSHO
Jコマンド(PC-VAN)

なお、パソコン通信による情報提供は、国立教育会館の協力を得て実施しています。

●著作権所有——文部省◎

●発行所——株式会社 きょうせい

本社 〒104 東京都中央区銀座7-4-12

本部 〒167-88 東京都杉並区荻窪4-30-16

電話 03-5349-6666(営業部) 振替口座 00190-0-161

●印刷所——株式会社行政学会印刷所

平成9年6月10日印刷

平成9年6月10日発行

定価610円(本体581円)(〒84円)

年間購読料7,320円

・ただし、増大号、臨時号の場合は別に代金を申し受けます。
・なお、購読のお申し込みは直接営業所またはよりの書店にてお願いします。

●本誌の掲載のうち、意見にわたる部分については、それぞれ筆者個人の見解であることをお断りいたします。

Printed in Japan 1997 ISSN 0916-9830 ●この刊行物は再生紙を使用しています。